



新たな決意

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様にはご家族の皆様と共に清々しい新年をお迎えになられたことと存じます。早いもので今年度のロータリー年度は既に半分終わりました。紙面をお借りして2510地区のロータリーの皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

顧みますとこの半年、いや実質的には1年以上になりますが、物事は大過なく順調に進んでいるように思えるかもしれませんが、私の心の中は決して波静かであったとは言えません。常に「これで良いのか」という焦慮に何度もおそわれた。

国内GETSに始まって、サンディエゴでの国際協議会、地区内の研修会、PETS、地区協議会と立て続けのスケジュールを何とかこなして参りました。エレクト時代は、まだ「エレクトだから」という言い訳が心の逃げ道になっていました。しかしながらGETSで国際ロータリーが進めようとしている方向や施策を教わるにつけ、当地区とのギャップを思い知らされ、心の中での葛藤が渦巻いてきたことであります。

まずは会員の減少であり、高齢化問題があります。それは予算の減少と共に志気の低下となって現れてきております。それにも増して心を痛めたのは、ロータリーが100年を迎えるにあたって新たに大きく変化しようとしている3つの目標、それは一にポリオ撲滅運動であり、二に長期ビジョンを持ったクラブリーダーシッププランの推進であり、三に2013年に本格実施される現在テスト中の財団の未来の夢計画であります。ポリオはあと1インチのところまで来ていると言われております。残りの二つ以外の事項についてもニュージェネレーションの問題、今まで陰徳としていたロータリーの広報活動問題についても、早急に対処していかねばならないテーマであります。これらが世界的な大きな動向であります。この大きなうねりに比べて当地区は、これら全ての問題について充分に対処しているとは言い難いのであります。部分的に進んでいるクラブがあり、RI会長賞を何食わぬ顔で2、3回獲得しているクラブもあります。しかし、いろいろな面で当地区は、全国に後塵を拝しているのも事実であります。例えば、会員の減少率であり、ポリオの献金額であります。特に遅れているのが、クラブリーダーシッププランの進捗率であります。

私はこれらの心配ごとを胸に抱えながら7月から73クラブの公式訪問に入りました。私は過度に形式にこだわらないようにして、まずは皆さんの真意を聞こうと努め、RIの、そして当地区の目指す事柄、その狙いとする真意を中心にお話ししました。私はクラブ訪問を重ねる毎に日に日に元気になりました。皆さんのCLPなどに対する誤解は日に日に解けていきましたし、私の方でも「これは」とうならされるようなことも多々ありました。その一つだけをご紹介します。「何もない春です」と謡われたえりもの植林活動の素晴らしさに対して私は「これは以前映画『釣りバカ日誌』でやっていたね」とうっかり口をすべらせましたら「何を言うか、こちらの業績を映画の方が真似したのだ」— 私は平謝りに謝りました。

私はこれらの各クラブの社会奉仕活動の実施事例をマンガチックな本にしようと思っています。阪崎地区社会奉仕委員長さんの下で編集されつつあるので、もうじきお目にとまると思います。

来るべき2013年の未来の夢計画の時は、この本をもって財団と対峙したいと思っております。